

民国連携した低コスト造林の取組

～シカ被害対策（斜め張り方式）現地検討会の実施～

〔南木曾支署〕近年、ニホンジカが森林にもたらす食害は全国各地で増加しており林業経営に深刻な問題となる中、当支署管内においてもニホンジカの目撃情報が年々増えてきたため、センサーカメラによる生息調査に三年前から全署的に取り組んできたところ、子鹿を含めた撮影数の増加や新たな箇所での撮影など生息数や生息域の拡大が確認され、将来的には森林被害の発生や拡大が懸念されています。

このため当支署では、効率的、効果的なニホンジカ対策の検討を進めており、今回その一環として、比較的lowコストで設置できる、斜め張り方式の獣害対策用防護柵（さいねっと）の現地検討会を、7月26日に、南木曾国有林314ほ林小班において、地元自治体や林業事業体から担当者40名を超える参加を得て開催しました。

当日、開会式では酒向支署長より「効率よく森林資源を循環利用していくためには、伐採、保育に掛かるコストを軽減する必要がある。民国共通した課題であり、協力して効果を実証したい。」との挨拶があり、続いて、現地検討会の講師である大同商事株式会社の担当者から今回設置する「さいねっと」の性能や設置方法などについて説明があり、その後二班に分かれ、150ほほどネットを設置しました。なお、今回の検討会ではさらなるコストの軽減のため、現地の立木を支柱の代わりとして活用したり、林道下の柵はシカが跳び越え易いため、従来の支柱より長い支柱を使用するなど職員等のアイデアを採用しました。

今回の現地検討会は、あいにくの雨天での開催となりましたが、参加者全員が新たな設置方法の習得や、課題と解決策の検討に真剣に取り組んでいました。参加者からは「支柱も軽量で作業性が良い」や「比較的安易に張ることができた」、「民有地でも試してみたい」などの感想が聞こえる一方で「当地のような多雪地帯で雪の重量にどこまで耐えられるのか」と心配する声も聞かれました。当支署では、今後降雪時、融雪後に係るメンテナンスコストの検証等を実施し、得られた情報を民有林にフィードバックするなど情報共有するとともに、低コスト造林や獣害被害対策など民国連携した取り組みをさらに進めていくこととしています。



「さいねっと」の性能や設置方法の説明